



かもみーる通信

CONTENTS

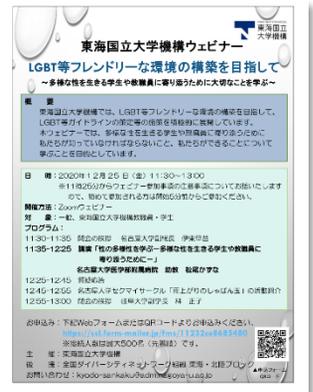
- * 東海国立大学機構
LGBTセミナー
- * カモミール月曆
* 理工系分野で活躍する
ロールモデルとの交流事業
- * これからの共育・共働きセミナー
* 勤労感謝
(岐阜大学保育園ほほえみ)

東海国立大学機構 LGBTセミナー



オンライン開催 (Zoom)

東海国立大学機構では、LGBT等フレンドリーな環境の構築を目指して、LGBT等ガイドラインの策定等の施策を積極的に展開しています。本セミナーは、多様な性を生きる学生や教職員に寄り添うために私たちが知っていなければならないこと、私たちができることについて学ぶことを目的としたウェビナーです。ぜひご参加ください。



LGBT等フレンドリーな環境の構築を目指して ～ 多様な性を生きる学生や教職員に寄り添うために大切なことを学ぶ ～

日 時：12月25日 (金) 11:30～13:00

★11時25分からウェビナー参加の注意事項についてお話がありますので、初めて参加される方は開始5分前からご参加ください。

対 象：一般、東海国立大学機構教職員・学生

申込みフォーム：<https://ssl.form-mailer.jp/fms/11232ce8685480>

お問い合わせ：名古屋大学男女共同参画センター E-mail：kyodo-sankaku@adm.nagoya-u.ac.jp

カモミール月曆 (室長からのメッセージ)



副学長 (多様性・人権・図書館担当) 林 正子

トップマネジメント・セミナー「ダイバーシティ経営の推進と次世代女性リーダーの育成」

11月2日(月)アピ株式会社にて、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」事業「清流の国 輝くギフジョ 支援プロジェクト」の一環であるトップマネジメント・セミナーがオンライン開催され、野々垣孝彦 アピ株式会社取締役社長、稲垣隆司 岐阜薬科大学学長、松川禮子 岐阜女子大学学長、岐阜大学からは森脇久隆 学長、杉山 誠 理事・副学長、4機関44名の管理職メンバーが参加しました。

テーマは、「ダイバーシティ経営の推進と次世代女性リーダーの育成」。経済産業省中部経済部の青山美代子地域人材政策室長による講演は、「女性活躍～ダイバーシティ経営推進の背景～」 「人生100年時代の社会人基礎力」 「中部経済産業局の取り組み」の構成でおこなわれました。

最初に、「女性活躍～ダイバーシティ経営推進の背景～」について

日本の女性活躍の現状として「M字カーブ」の改善傾向が見られるものの、正規雇用率が20代後半をピークとして低下し続ける「L字カーブ」という新たな課題があることが指摘されました。L字カーブとは、女性の年齢階級別の正規雇用労働者比率を示す指標で、グラフ化した時の形がアルファベットの「L」の字の形に似た曲線を描くことから命名されたことばです。

今後、女性の就業において正規と非正規の二極化を改善するために、より柔軟に雇用形態を変更できる体制づくりなどが求められていること、またそのような制度設計によって出産後の継続就業率が高まることなどが述べられました。

併せて、役員および管理的職業従事者の女性比率が著しく低いことなどが、内閣府男女共同参画推進局「平成30年版男女共同参画白書」 https://www.gender.go.jp/about/danjo/whitepaper/h30/gaiyou/pdf/h30_gaiyou.pdf の具体的なデータにもとづいて紹介されました。

また、「ダイバーシティ経営」による効果として次の4項目が挙げられました。

1. 組織のイメージアップにつながる「グローバル人材確保力の強化」
2. 女性や外国人などの多様な人材の活躍による「リスク管理能力の向上」
3. 女性や外国人などの多様な人材の活躍による「組織の監督機能の向上」
4. 先行き不透明な時代を生き抜くための「イノベーション創出の促進」

次に、「人生100年時代の社会人基礎力」について

職場や地域社会で多様な人々と仕事をしてゆくうえで必要とされる「社会人基礎力」の「3つの能力」と「12の能力要素」が提示されました。

- | | |
|--------------------|---------------------------------------|
| ● 前に踏み出す力 (アクション) | 主体性・働きかけ力・実行力 |
| ● 考え抜く力 (シンキング) | 課題発見力・計画力・創造力 |
| ● チームで働く力 (チームワーク) | 発信力・傾聴力・柔軟性・状況把握力・
規律性・ストレスコントロール力 |

「社会人基礎力」は、個人が企業・組織・社会との関わりのなかで「ライフステージの各段階で活躍し続けるために求められる力」と定義され、能力を発揮するにあたって、自己を認識しリフレクション(振り返り)しながら、自らキャリアを切り拓いてゆくうえで必要であると述べられました。

最後に、「中部経済産業局の取り組み」について

組織の経営戦略としての女性活躍推進を趣旨とする「次世代女性リーダー候補育成講座」(中部WIN)、「ものづくり女子の活躍応援サイト」などが紹介されました。

「中部WIN」(Women's Initiative for Next-generation)の理念は、次世代の女性リーダーを育成し、地域・企業・個人の「win-win-win」により、中部地域におけるダイバーシティ形成を目指すこととされています。

「女性管理職による取り組み紹介」、「トップリーダーによる情報提供と意見交換」、「グループワーク(社会課題解決のためのビジネスモデルを検討)」で構成されており、2020年度の活動内容は、次のURLでご覧いただけます。 https://www.chubu.meti.go.jp/b12mono_woman/win/index.html

また、中部地域のものづくり企業を中心に、働く女性を応援しダイバーシティ経営をおこなっている企業の魅力を伝える「ものづくり女子の活躍応援サイト」も併せて紹介されました。 https://www.chubu.meti.go.jp/b12mono_woman/

女性活躍のための環境整備がシニアをはじめ多様な人々に有効である事例など、ダイバーシティ&インクルージョンを実現するために、大学、企業を問わず、組織において女性の活躍推進の取り組みがいかに重要であるか、改めて認識する貴重な機会となりました。

理工系分野で活躍するロールモデルとの交流事業



11月中旬、岐阜県主催「理工系分野で活躍するロールモデルとの交流事業」（共催：岐阜大学男女共同参画推進室）が岐阜県下の中学校2校にて開催されました。

本事業は、岐阜県男女共同参画・女性の活躍支援センターが当室事業「サイエンス夢追い人育成プロジェクト 女子大学院生による出前講義」の実施例を参考に、進路選択のより早い段階で理工系分野で活躍する多様なロールモデルに出会うとともに将来について考える機会を提供したいとの思いから実現しました。

当初は6月に1校目の実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染状況を踏まえ、岐阜県、中学校、講師を含む関係者が感染防止策について検討を重ねたうえで11月18日に大垣市立興文中学校、11月20日に岐阜市立陽南中学校での開催に至りました。

大垣市立興文中学校では、2年生の3クラス（計105名）に対して学年主任の先生による開会の挨拶、岐阜県男女共同参画・女性の活躍支援センター長の挨拶を放送室から放送したあと、生徒は講師が待つ理科室、技術室、多目的室を順番に回り、3名の講師（以下参照）はクラスごとに計3回の講義をおこないました。

名古屋大学大学院博士課程1年の松本昇子さん（岐阜大学大学院修了）は、ご自身が現在取り組む腸内細菌に関する研究や幼少期からの興味関心そしてこれまでの進路選択の経験について、岐阜大学で過ごした学部・修士課程も含めて分かりやすく説明したほか、生徒が研究の面白さを実感できるようにブロッコリーと玉ねぎを用いたDNAの抽出実験を行いました。実験後には、今後の進路選択のヒントとして、「好きなことをみつける」「様々な体験をする」という点を、自らの経験をふまえて話しました。



アビ株式会社養蜂部ミツバチ課の坂本彩さんは、アクリルケースに入れた約2500匹のミツバチとともに登壇し、ミツバチの生態や私たちの生活とミツバチとの密接な関係、そしてご自身の14歳の頃を振り返りながら進路選択について中学生の視点に立って講義しました。その際、社会には中学生がまだ知らない仕事がたくさんあること、自分の「好きなこと」を仕事にするためには、情報を集め、様々な経験を積み重ねたうえで自ら進む道を決めることが重要であることを熱く語りました。

岐阜県庁県庁舎建設課の大上さおりさんは、幼少期から高校生までの様々な出会いや経験を通じて建築の世界に魅了されたこと、建築学科へ進学するために苦手だった数学や物理に一生懸命取り組んだこと等について話しました。また、かつては男性中心の職業だった建設分野でも近年は女性の活躍が目立ってきており、一級建築士として活躍する現在は岐阜県庁新庁舎建設事業からトイレ改修など多種多様なプロジェクトを担当していることについて、写真やイラストを用いながら分かりやすく説明しました。そして、生徒たちに対して、今は好きなことを仕事にするための基礎力を養うトレーニング期間であり、いつか出会う将来の夢のために勉強を続けてください、と激励しました。

登壇した講師3名の職業やライフステージはそれぞれ異なるにもかかわらず、共通して「自分の好きなことを見つけること」の大切さを語っていたことが印象的でした。

2日後に開催された岐阜市立陽南中学校では、2年生（178名）が体育館に集合し、興文中学校同様に入退場口や窓を開放し、生徒同士のソーシャルディスタンスの確保や関係者のマスク着用など感染防止対策を徹底したうえで、広い会場でも見やすいようにスクリーンとカメラ映像を駆使しながら松本昇子さんと坂本彩さんの2名が登壇してDNA抽出実験やミツバチを見せながらの講義と質疑応答をおこないました。



両校ともに学年代表や学級委員が司会進行を務め、生徒たちは熱心に講師の講義に耳を傾けて積極的に質問するなど、本事業の教育効果の高さを改めて実感しました。（落合絵美）

これからの共育・共働きセミナー参加報告



岐阜大学は2020年2月28日に「ぎふし共育・女性活躍企業」に認定されました（有効期限2023年3月31日）。これを受けて11月6日（金）、「ぎふし共育・女性活躍企業」を対象に岐阜市主催「これからの共育・共働きセミナー」がみんなの森 ぎふメディアコスモス（岐阜市）にて開催され、本学も認定機関としてセミナーに参加しました。

セミナーでは、主催者挨拶のあとに岐阜大学地域科学部の立石直子准教授が「現代における女性活躍、ダイバーシティの意義—学生の就活時の悩みに寄り添って—」を題して、少子高齢化が進行する中で日本および岐阜県内においても人手不足が深刻化していること、経済成長のために女性への期待が一層高まっていること、そして多様な人材が活躍する企業ほど優れた業績を達成する傾向にあることなどについて、様々な研究データを紹介しながら講演されました。

続いて、キャリアコンサルタントの柴田佐織氏（株式会社CREA）が「子育て中の社員にやさしい組織風土を築く必要性とその方法」と題して、育児中や介護中など様々な状況下にある社員にとって働きやすい職場環境を醸成するための方法について、ご自身がこれまで関わった企業の事例を挙げながら講演されました。

最後に、セミナーに参加した各認定企業の代表者が発言し、問題意識を共有しました。全体を通して、国際比較を含めたマクロな視点から現場で実際に起きている問題や好事例の共有など、多角的な視点から理解を深めることのできる貴重なセミナーとなりました。（落合絵美）



勤労感謝（岐阜大学保育園ほほえみ）



11月24日（火）岐阜大学保育園ほほえみの園児3名が本部棟4階を訪れ、上田浩司特命部長と伊藤幸保人事労務課長に、日ごろの感謝を込めた手作りの素敵なメッセージボードをプレゼントしました。



岐阜大学男女共同参画推進室（管理部人事労務課（男女共同参画推進事務局）） URL：https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/
〒501-1193 岐阜市柳戸1-1 TEL：058-293-3397 FAX：058-293-3396 E-mail：sankaku@gifu-u.ac.jp

*男女共同参画に関するご意見・ご要望は、男女共同参画推進室にお願いします。